

【70歳からの中小企業経営者の生き方・過ごし方について・その6】



「自分は自分。他人と比較しない。」

とかく人間は他人との比較で自分の存在感を確かめます。ただ、それが過剰になると自分を見失います。それが妬みとなり、他人の成功を認めたくなくなります。

しかし、その成功を心より喜び、それをプラスのエネルギー(自分を発奮させる原動力といっても良い)に代えることこそ、本来のプロのあり方だと思います。あいつに出来て俺に出来ないわけがないという自負心。それは、サラリーマンであれ経営者であれ、人として大成するのはここが大きな分水嶺だと思います。

これは、スポーツの世界でも良くいわれることだと思います。仮に、ダントツな成績を残す選手でも「良きライバル」がいたからこそ、頑張れたという逸話は多くあります。

元ヤクルト監督の野村克也氏は、巨人の長嶋茂雄氏に強烈なライバル心を抱いていました。長嶋さんを「ひまわり」に見立て、自分は「野に咲く月見草」と、卑下したように言っていました。

絶対的な人気を誇る長嶋さんには勝てませんでした。三冠王を二度も獲得した成績や、その後の活躍ぶりは誰もが認める名人になりました。

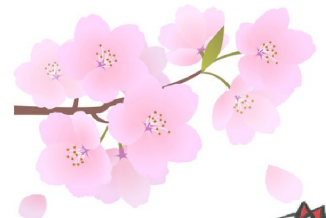
さらに、プロゴルフ界でも圧倒的な人気を誇るジャンボ尾崎さんに対して、青木功さんもジャンボがいたからこそ、自分があったと言っています。

お互いに高め合う存在は何の世界にも共通していると思います。

成功した相手には、それを羨ましく思うのではなく、「おめでとう」と言いましょ。やはり、人としての素直さが重要だと思います。

自分にはまだこれが出来ていないと感じる方は、これを機会にこのような思考を心がけましょ。

そういう私も、実は自分に言い聞かせているのですから。



株式会社 東京アプレイザル
〒102-0084 東京都千代田区二番町 5-5
番町フィフスビル 4F
TEL:03-6261-9030 FAX:03-6261-9032
メール: tap-info@t-ap.jp

春の訪れを感じる季節となりました。
穏やかな日々をお過ごしください。

